

令和7年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	22	学 校 名	吉田特別支援学校駿遠分教室	校 長 名	伊藤 聖子
------	----	-------	---------------	-------	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
授 業	ア 「やりがいと手ごたえのある」授業の実践	・児童生徒は、それぞれにやりがいや手ごたえを感じて登校している。	A77.8% B22.2% C 0% D 0%	A	・登校時に楽しい授業を伝えてくれる児童生徒が増えた。 ・特に『作る、身体を動かす』活動に意欲的に取り組んでいる。 ・今後も、単元や単元後も「○○やりたい」と主体的な言葉を聞けるようにしていきたい。
	イ 地域と協働する教育課程の再編	・教員は、自分の担当単元の設定理由を明確に語ることができる。	A55.6% B44.4% C 0% D 0%	A	・学校教育目標、指導要領を念頭に生活般化や必然性を理解して取り組めた。 ・何を目標にするか実態を考えながら授業計画を行い、学部会でも話題にできた。 ・単元カードをもとに、学部会や日々の会話の中で授業について話ができている。 ・子供たちにどんな力を身に付けさせたいかを考え、子供の姿を想像しながら授業計画を立てることができている。
	ウ 教職員の専門性の向上のためのシステム作り	・教職員は、授業準備や分掌業務に十分に取り組んでいる（前年度比）	A22.2% B55.6% C22.2% D 0%	B	・適切な事務研の時間が確保されている。 ・子供同士のトラブルや施設破損等が起きた場合、事故の報告で紙面にまとめるものが多かった。記録として残す方法を整理して対応できると業務削減につながる。 ・毎年異なる分掌課長であるため、業務内容が全く分からず苦戦している。減らすことや効率よく仕事するために、複数年経験を積みたい。 ・分掌内で業務を精選する時間を取れなかった。

様式第3号

		・教職員は、自分の決めたテーマに沿った研修を進めている。	A55.6% B22.2% C22.2% D 0%	A	・かかわる姿を明確にしたり、視点を意識したりして授業研修できた。 ・様々な研修を学ぶ機会があり、知識を広げることができた。一方限られた中で自分独自の研修を進めることは難しかった。
連携	ア 児童生徒が主体的に取り組むキャリア教育の推進	・児童生徒が、自分の学習を振り返って記録する機会が継続できている。 ・保護者（学園）とも共有できている。	A50.0% B50.0% C 0% D 0%	A	・毎單元ごとの振り返り、アルバム作り等で、成果を確認できた。（小） ・学園とこまめに情報共有できた。（中）
	イ 吉田町の特色を生かしたコミュニティスクールの推進	・学校間交流、交流籍を活用した共同学習により、互いに成果を確認することができている。	A44.4% B55.6% C 0% D 0%	A	・5校交流に関して生徒自身が相手校を意識し、主体的に活動していた。 ・5校交流で他校の発表が参考になった。 ・実際の交流について毎年の積み重ねが大事であると感じている。OJTで交流について聞き、考えを深めることができた。
	ウ 生涯教育につながるスポーツ・芸術・読書活動の拡充	・一人一作品、作品展への応募（校内も可）ができている。 ・一人一スポーツ、一冊以上、好きなものがある。	A55.6% B44.4% C 0% D 0%	A	・福用駅ギャラリーの活用や市や県主催の作品展への応募がたくさんできた。また、多くの受賞者も出て、子供達の励みになった。 ・パラスポーツを各学部で取り組んだり、読み聞かせ週間を設定し、本に触れる機会を多く設けたりできた。 ・島田市図書館や川根図書館の活用を継続していきたい。
安心	ア 学校安全計画の更新と自分の身を守る力の育成	・児童生徒は自分の命を守るための行動がとれている。 ・教職員は、児童生徒の安全に対する想像力を働かせて、日々の業務にあたってい	A33.3% B66.7% C 0% D 0% A55.6% B44.4% C 0% D 0%	A	・一部の児童で命を大事にしない言動が多い。実際に行動には移さないが、他の児童への影響が心配である。 ・緊急対応はもちろん教室の環境整備等話し合い、安全に努めている。そのうえで事故が起きた場合、すぐに改善でき

様式第 3 号

		る。			るよう話し合っている。 ・教室、グラウンド、校外等で活動しているときに万が一のことを頭の中で想定できている。
	イ 事故や大規模災害に備えた危機管理体制の強化		A88.9% B 0% C11.1% D 0%	A	・KYT 等を通して想像力を働かせながら取り組むことができた。 ・危機管理マニュアルを意識することに加えて、予想される危険なことを考え有事の際の対応ができている。 ・生徒の実態に合わせた、『たられぱ』をイメージしている。 ・教員間で声を掛け合っている。 ・クリップ、丸磁石落ちていないか確認が必要。
	ウ 守るために学ぶ教職員の育成	・教職員は人権感覚を磨き、児童生徒の見本となる行動がとれている。	A77.7% B33.3% C 0% D 0%	A	・人権意識チェックシートを活用して自分自身の行動を振り返り、教員間で声を掛け合いながら児童生徒の見本となる行動ができた。 ・交通安全教室や行方不明者捜索訓練を通して、児童生徒や職員の安全意識を高めることができた。